

小さな駅が見続けたまちの歩みをたどる

～西淡路・淡路～

新庄第2用水路橋梁

元は用水路にかけられた鉄道橋であったが、用水路を埋め立てて道路としたため、「けた下制限高1.5M」の標識にあるよう、大人でも届かないと通れない高さとなっている。

須賀森公園・須賀神社址

須賀神社は、明治43年(1910)中島惣社に合祀された。その由緒ある跡地を永久に保存するため、地元民の熱意で公園に姿をかえ、憩いの場となっている。ここには樹齢約600年の大楠が大阪府天然記念物に指定されている。

JR淡路駅

貨物線として昭和4年(1929)に開通した城東貨物線は、周囲の宅地化により旅客線化を長らく要望されていた。阪急との交差位置に駅を設置することとなり、平成31年(2019)3月に開業を予定している。駅舎は「菅原道真と淡路」をコンセプトにデザインされている。



新庄第2用水路橋梁 ②

①東淀川駅

③須賀森公園・須賀神社址

⑤国次高射砲陣地

⑥中島大水道顕彰碑

④須賀神社参道

⑩淡路本町商店街

⑧JR淡路駅

⑦新庄小橋

⑨阪急淡路駅

東淀川駅

地元の熱心な請願により、土地と一部建設資金を拠出して設置され、昭和15年(1940)に開業した。瓦ぶきの駅舎は建設当時の面影を残していたが、開かずの踏切対策で、平成30年(2018)に橋上の新駅舎となった。

国次高射砲陣地跡

太平洋戦争において、米軍機を撃ち落とす高射砲を配備するため旧日本軍が作った砲台で、6基の砲台に約150人が配属されていた。当時は市内だけでも約300基の砲台があり、ほぼ完全な形で残るのはここだけと言われているが、都市計画道路工事で解体予定である。

新大阪駅と東淀川駅

戦前の弾丸列車計画(新幹線)では、大阪のターミナル駅は東淀川駅に設けられる予定であった。現在の新幹線が建設されたときに、新大阪駅との距離が近かったため、東淀川駅は廃止される予定であったが、地元の寄付で建設されたことから、存続されることになった。

中島大水道顕彰碑

延宝6年(1678)、当地の滞留水を海に流す目的で、「百姓自普請」として開いた用排水路である。公費補助を嘆願したが認められず、非常な苦心の末、ここから福村吐出口樋まで9.5km、幅19mの水路を、わずか50日間ほどで完成させた。

淡路本町商店街

大正10年(1921)、淡路駅開設後、ここを中心に商店街がひらけてきたのが最初である。以来地域と共に発展をつづけ、近代的なアーケードやカラー舗装を完備し、大型量販店とともども連れいして、ふれ合いと憩いの町づくりを目指している。

阪急淡路駅

大正10年(1921)に十三～豊津間の開業と同時に設置され、当時は周囲が田んぼだった。現在は阪急京都本線と千里線が交わり、駅周辺は大きく繁栄している。高架化の工事が進められており、平成37年(2025)に上下2層の高架駅となる予定である。